

# 新潟・綾ノ前遺跡

あやのまえ

- 1 所在地 新潟県三条市大字月岡
- 2 調査期間 一九九二年(平4)六月～十二月
- 3 発掘機関 三条市教育委員会
- 4 調査担当者 金子正典
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 九世紀～一四世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(三条)

綾ノ前遺跡は東山丘陵から新潟平野にのびる緩やかな扇状地上に位置している。遺跡の時期は平安時代と中世の二時期が主体となっている。遺構は柱穴・溝・土坑・井戸などが確認されているが、出土遺物から見てその大半は中世のものと考えられる。遺物は、須恵器・土師器・珠洲焼・土師質土器・青磁・白磁などがある。また井戸から多種の木製品が出土しており、呪

符木簡・下駄・横櫛・曲物・漆器碗・大皿・箸状木製品などが検出されている。井戸は一〇六基確認されており、ほとんどが素掘り井戸である。

木簡(1)は直径一・二m、深さ一・八mの不整円形の素掘り井戸SE四七底部より五〇cm上の黒色腐蝕土層中から出土した。この井戸の同層より土師質土器・箸状木製品・曲物・漆器碗・板状木製品が伴出している。木簡(2)が出土したSE四一は、直径〇・九m、深さ一・二mの円形の素掘り井戸で、木簡は底部より二〇cm上の黒色腐蝕土層より出土している。同層より板状木製品、自然木の枝などが出土している。

## 8 木簡の积文・内容

(1) 「蘇民将来」  
[孫宅也カ]

・「☆」 (171)×20×1 019

(2) 「蘇民将来」  
(子孫) 祢宅也」

・「(符録) ☆」 183×23×2 051

二点とも蘇民将来の呪符木簡である。時期を特定できる遺物は井戸からは伴出しなかったが、遺跡から出土している珠洲焼等から一四世紀頃のものとして推定される。形態は、(1)は頭部が方形、全体が長方形を呈する。(2)は上端が圭頭、下端を尖らせている。



なお、釈文については国立歴史民俗博物館平川南氏のご教示を頂いた。

(金子正典)

## 木簡研究 第二号

巻頭言

田中 琢

一九八九年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京二条四坊十一坪 薬師寺 西大寺 藤原宮跡 藤原京跡 山田寺跡 上之宮遺跡 飛鳥京跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京左京三条三坊十六町 平安京西市外町 平安京右京六条一坊十三町 平安京右京七条二坊十四町 久田美遺跡 大坂城跡(1) 大坂城跡(2) 大坂城跡(3) 上清滝遺跡 日置荘遺跡 上町遺跡 小曾根遺跡 森北町遺跡 但馬国分寺跡 砂入遺跡 嶋遺跡 山国・源ヶ坂遺跡 上滝野・宮ノ前遺跡 清洲城下町遺跡 川合遺跡八反田地区 多摩ニュータウン遺跡群(No.10七遺跡) 西河原森ノ内遺跡 木部遺跡 虫生遺跡 筑摩佃遺跡 国分境遺跡 門田条里制跡 胆沢城跡 秋田城跡 辻遺跡 寺前遺跡 天神山遺跡 百間川原尾島遺跡 草戸千軒町遺跡 周防国府跡

一九七七年以前出土の木簡(一二)

平城宮跡(第三五次)

森ノ内遺跡出土の木簡をめぐって

山尾幸久

木簡類による和名抄地名の考察

——日本語学のたちばから——

内資人考

工藤力男  
春名宏昭

彙報

頒価 三八〇〇円 千五〇〇円